

## 持続可能な地域発展と信州大学のミッション・ビジョン・バリュー

国立大学法人信州大学

学長 中村宗一郎

大学はこれまで高い教養と高度で専門的な知識を持った知識人、高度専門職人材の育成に心血を注ぎ、その過程において深く真理を探究し、新たな知見を積極的に発掘・創造してきました。そのような中で、「大学の知の活用」についても意識が高まり、2006年（平成18年）に教育基本法が改正され、教育や研究にとどまらず、それらの「成果を広く社会に提供」し「社会の発展に寄与」することも大学の重要な役割であると規定されました。教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であります。産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになり、大学の果たすべき第三の使命として「社会貢献」が追加されました。

昨今のコロナ禍では、大学がその地域に存在し、そこで様々な「場」を提供する意義を改めて考えさせられ、大学が果たすべき役割について原点に立ちかえって考え直す端緒となりました。アフターコロナ社会においては、地方大学が地域の中で果たす「教育」「研究」「社会貢献」の役割はますます大きく重要になるでしょう。大学が中心となり、多様な学問分野、業界、世代、そして地域社会に分散している「人」や「知」を集約・結集すれば、そのシナジー効果によって、とてつもなく大きな新しい価値（破壊的イノベーション）を生み出すことが可能となります。別の言い方をすれば、大学には「知」の創造だけではなく、社会と深く連携して「人」や「知」から派生する新しい価値の共有・定着の役割を果たすことが期待されています。

私は、その役割を果たすための大学の機能として、学びの機能 (Learning)、寄り添う機能 (mutual Understanding)、つなぐ機能 (Connecting)、知の機能 (Knowledge)、そして、未来を志向し、産み出す機能 (Yield)の5つを挙げ、そのワードの頭文字を繋げて“LUCKY”と呼んでいます。信州大学は、総合大学としての強みをいかんなく発揮し、5つの機能をバランスよく担っていきたいと考えます。また、今後6年間の経営理念として『信大フィロソフィーinGEAR (インギア)』を合言葉に、信州大学のブランディングを確たるものにしていきます。inGEARとは、“inGenious, Enterprising and Actionable Regional revitalization (独創的、進取的かつ能動的な地方創生)”を原型とした造語であり、この理念のもと、地域社会と大学を連続的に一体化し、人材の繋がり（ステークホルダーエンゲージメント）を高め、さらには教員・職員・学生との関係がより身近になって、互いに高めあうことのできる環境創り（教職学協働）を力強く進めます。信州大学が、地域のイノベーションハブとしてこの地域の振興を本気で担う大学となるよう、これまでよりもギアを一段上げて大学経営に臨む所存です。

大学が持続可能かつ社会に貢献する組織であり続けるためには、日々の教育研究活動を通じて、ステークホルダーの皆さまと根気よく対話し、成果や価値観を共有し、一体感を醸成することが何より大切です。本日は、限られた時間ではございますが、持続可能な地域発展を念頭においた、信州大学の教育、研究、社会貢献のいくつかの取り組みを紹介させていただく予定にしています。私どもの地域イノベーションにかける心意気（フィロソフィー）が伝われば幸甚に存じます。

山村弘町長はじめ坂城町の皆さま、(公財) さかきテクノセンターの皆さまには、常日頃から大変お世話になっております。また、本日は、このような機会を与えて頂き、本当に感謝しております。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。